

二葉

東京支部だより

第 4 号

平成 7 年 4 月 1 日発行
諏訪二葉高等学校同窓会
東京支部編集委員会

題字 今井綾子 (高女28回)



温もりのある東京支部に

支部長 井上玲子 (高校3回)

思いもよらない阪神大震災が、瞬時に多くの命と生活基盤を奪い去り、無常の時は流れて行きます。皆様には如何お過しでしょうか。

「東京支部だより」第4号が、校長先生並びに本部の皆様、支部会員の皆様の御協力に依り、ここにお届けする事が出来ました。感謝申し上げます。

私共役員一同が緊張の中にも順調に本年度事業の一つであります「東京支部だより」に取り組みましたのも、会の組織を確立して下さいました諸先輩及び会員の皆様の御熱意に依るものであります。

一昨年からの役員選出方法では、一年間の見習い期間を経て翌年に引き継ぎをする正副支部長の役目が、精神的にも実務的にも受け入れ易くなりなりました。今後、若い層の方々への役員の順番が及ぶ様になれば、自然とその年代層の関心が強まるものと存じます。

今年度は、男女共学制が施行されて以来初めての男子

同窓生を迎える事が出来ました。この日の為にも、どちらかと言えば男性社会的な長野県同窓連合会、南信同窓連合会へ加入し、二葉高校同窓生としての社交の場を持つ努力もして参りました。

東京支部の発展を願って

前支部長 武井善子 (高校2回)

平成の時代に入ってはや七年目の年を迎え、様々な出来事と共に移りゆく年月の早さに思わず目をみはるようなこの頃ですが、会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。

私の任期中には東京支部を代表して本部理事会に何回か出席させて頂きました。数多い各支部の中でも、東京支部は年々会員数も増え、維持費の納入も順調に集まるようになり、充実した同窓会に発展して参りました事を心より嬉しく思います。

現在長野県には一〇八校もの高校が有り南信地区でも二十八校有りますが、東京には

これからは友達を誘い合わせて新しい世代の活力源となります様、積極的な支部活動への参加を期待します。

同窓会東京支部は、心を癒す森林浴の場の様なもの、仕事や育児の真只中の後輩の方々から、人生経験豊かなゆとりの方々迄、境遇や年代を越えて生きる智慧を交流する都会のオアシスと考えてお集り下さい。皆様の声をお待ち申し上げます。

長野県の高校同窓連合会が有って、今年度は丁度三十周年を迎えるようです。宮崎前支部長の年度より当支部もこの会に出席するようになりました。

総会や新年会で顔を合わせ、また昨年十月には南信地区の親睦旅行会の幹事校として諏訪二葉が岡谷南校の方々と共にお役をつとめました。他校の方々から時折、諏訪二葉は優秀な学校ですね、と言われる。このすばらしい学校の同窓会東京支部が尚一層充実した会に発展する為にも会員の皆様の御協力を心よりお願い致します。

平成6年度総会決まる

日時 平成7年5月23日(火)
10:30~15:00
会場 日本青年館 4F 東洋軒
TEL 03-3475-2525
講演 講師 山崎 一穎先生
(跡見学園女子大学教授)
『森鷗外の作家誕生まで』
昼食パーティー
会費 5000円

本部理事会報告 (平成6年度)

- 終身会費(昭和63年以前の卒業生)納入締切り
- 従って入学時に入会金3000円+終身会費8000円を納入する事に一本化。
- 入学式新入生へ校章贈呈
- 会報「ふたば」23号発行 4月1日
- 第60回同窓会定期総会 5月14日 於シティホテル成田屋
- 生徒会二葉祭へ祝金贈呈 10万円
- 宮芳平展 豊科美術館にて開催後援 8月
- 親睦バス旅行 軽井沢方面 10月7日 116名参加
- 校内講演会(学校・同窓会・PTA共催)10月下玉利百合子先生
- 卒業式・卒業生へ記念品贈呈 テレフォンカード 平成7年3月

東京支部だよりに寄せて

諏訪二葉同窓会会長 小口玲子(高女37回)

昨年の五月二十日、東京支部総会にお招きいただき華やかな中に格調高く進行される雰囲気感触、改めて二葉同窓生の底力を感じました。詫摩武俊先生の『心の健康と老い』のご講演を反芻しながら、勉強させていただけた喜びもひとしおでした。支部長さん始め役員の皆様方の御努力の賜と、厚く御礼申し上げます。

さて、故郷を遠く離れてお暮しの皆様は、母校の地、この諏訪に格別の思いをお寄せのことでしょう。冬の諏訪湖は青々と光を乗せて輝き、雪の八ヶ岳、晴れた日には影絵のような富士山を見つけて、思わず息を呑む事もあります。この美しい自然環境に感謝せずには居られません。

先頃或講演会の講師が、理屈っぽいと言われる信州人について、「日本にはア、ウンの呼吸という言葉もあるが議論は大切、理屈っぽいのは



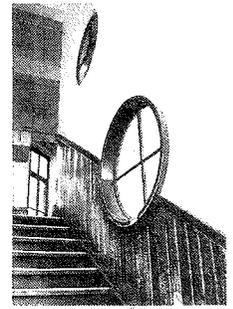
先頃或講演会の講師が、理屈っぽいと言われる信州人について、「日本にはア、ウンの呼吸という言葉もあるが議論は大切、理屈っぽいのは

本校は男女共学となって八

これからの二葉

学校長 坂本明由

諏訪二葉高等学校同窓会支部の中で最大の会員数を誇り、その活動も活発な東京支部の皆様にご挨拶申し上げます。



年を経過するところです。現在生徒数は総数一〇四二名の大規模校であり、男女の比率はここ数年一対二です。

生徒は九八%が大学等へ進学し、長野県の旧制高女を引き継ぐ高校では、もっとも進学成就率の高い学校になっています。

クラブ活動も盛んでして、本年度も全国大会で女子弓道個人(四位)、男子水泳(七位と九位)、女子ソフトテニスでベスト8の活躍があり、伝統のスピードスケートでは世界ショート・トラックジュニア選手権大会に女子一名が出場のため、カナダのカルガリに行き、また、国内大会では男女四名がこれから出場し活躍が期待されます。

次に、昭和八年十一月に竣工した本館ですが、同窓の方々の想いの建物ですので、いつまでも保存をという声をお聞きしていますが、屋上の排水が建物内部にしみ込むことにより壁の内部深くまで亀裂を生じ、近い将来予想される東海大地震が発生した場合、建物の倒壊まで至らなくとも壁面の崩壊が充分考えられることと、大規模校になった現在、土地・建物ともに狭小のため、他校にあって本校にない施設・設備がいくつもあることから、五、六年先ぐらいには改築の方向を打ち出さなくてはならないと考えています。

施設・設備の充実だけではなく、現在の本館の細部をできるかぎり復元していくことで、同窓の方々のお気持に沿うものが実現できればと願っています。

なにとぞ、現状のご理解と今後のお力添えをお願い申し上げます。

(写真は旧校舎階段)

平成4・5年度卒業生進学・就職状況

平成四年度	進 学 (合格)												就 職											
	国公立大学			私立大学			国公立専門			私立専門			事務		生産		販売		サービス		その他		計	
	現男	現女	浪人	現男	現女	浪人	現男	現女	浪人	現男	現女	浪人	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
9	43	32	44	216	162	1	16	2	13	44	0	0	8	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3	8
6	36	16	54	199	10	1	11	0	18	30	0	1	5	4	0	0	1	1	0	0	1	0	6	7

恩師だより

東京との絆



武居登志子

昭和十八年、大森校長の御招きで母校へ赴任した頃、五十一年から毎年一月四日、初詣にお連れ頂いたことは、近來の最大の喜びです。

同窓会に支部組織をつくることを提案しました。篠原一雄先生が、東京支部というのが前にあった筈と言われ、海沼先生に連絡され、多くの方の協力を得て東京支部が復活し、地方の支部結成と共に、現在の同窓会隆盛をもたらしました。

婚約時代と新婚生活を、渋谷の恵比寿や笹塚で過ごした数年間は、昭和一けたのなつかしい思い出です。

同窓会の講師依頼のため、中野の平林たい子先生を伺回もお訪ねしたことや、幸田文先生を訪問したこと等貴重な体験でした。高校関係の講師依頼で、お茶の水女子大松本文子先生、栄養短大の小田静

枝先生にお目にかかったのも遠い昔のことになりました。

卒業生の小林みすゑさんが宮中のお局に勤めて居られた頃、母と二人が坂下門から宮中に入り、あちこち案内されて、母共々大喜びしたものでした。

高校5回卒の方々に、昭和五十九年から毎年一月四日、初詣にお連れ頂いたことは、近來の最大の喜びです。

明治神宮、浅草寺、高幡不動尊、とげぬき地蔵尊、花園神社、豪徳寺、新井薬師、鬼子母神、柴又帝釈天、国分寺、大國魂神社と十一年にもおおよんで有名な神社仏閣に参詣しました。

長女と向島七福神巡りをしたこともありました。また神宮外苑に野球を観に行ったこと、弟の招待で国技館の相撲に奥田正造先生の愛子夫人と行ったこともありました。

愛子先生ご存命の間、目黒のご自宅へ伺って茶道のご指導を頂いたことも何回かありました。華道の勉強では、池の坊お茶の水学院へ六年も通

いました。

大好きなお花見も、多摩霊園の枝垂桜の美しさに目を見張ったり、奥多摩の山桜に心奪われたり、上野公園の華麗さに感歎の声を挙げたり、武蔵野日赤へ通う道の桜のトンネルを、雨に濡れながら静かに車で通り過ぎたこともあり

ました。東京との絆の深さを今更ながら強く感じ、東京とのかかわりがあったからこそ現在の私があるのだと思います。

あちこちとお連れくださった方々に厚く御礼を申し上げます。

私と二葉



小野文良

私が二葉（高校とは言いわない）に初めて足を踏み入

れたのは戦後間もなくの、とある日でありました。それも不純な動機で。

その当時、わが母校の清陵にも二葉にも合唱クラブが存在し、それぞれが男声合唱、女声合唱で活動していました。

それが、どちらからかは知りませんが、混声をやりたいという話が浮上していたらしいのです。清陵にはピアノが未だありませんでしたから、伴奏ということになると当然二葉ということになります。そんな折、今は故人となつてしまった花岡資貞君が、「おめ、合唱部にへえらねえか。二葉に行けるぞ。」というのです。まだまだ敷居の高かった二葉の校舎に正々堂々と出はいることができるのであります。

今は、全体的に校舎の改築が進み、殆んど同規格の音楽室になってしまい、面白みは薄れてしまいましたが、風格のある音楽室は楽しみました。二葉の部員では、細面のKさん、丸顔のMさん、ちょっと浅黒い感じのTさんなどの顔が甦ってきます。いちばんの想い出は、長野県合唱コンクールで、この合同合唱が第一位になったことです。ところが、二校合同はけしからんということ、私のやめた次の年から合同参加不可ということになってしまい幸運だったというほかありません。

その頃ご指導頂いたのが保坂先生です。私事ですが、保坂先生とは縁があって、信

大にはいつてからもご指導を受け、更に教師になってからも、恐れ多いことですが同僚として、面倒を見てもらい乍ら、おつきあいさせて頂きました。先生は、花道を過ぎた今もお元気でおいでです。

今、こうして再び二葉の校舎に居るハメになったわけでありますが、あの時のクラブ活動が、今こうして音楽（正確には音我苦）教師の道を辿るキッカケになったと思ふとき、不思議なえにしを覚えます。

最後まで女子高で残っていた二葉が共学になってしまったのは、時代の流れとは申せ少々惜しい気がします。男子生徒も何となく窮屈な思いをしているようです。それは、多勢に無勢だからです。音楽の授業でも、男子はあまり歌ってくれませんが、楽器をやっても消極的で、歯がゆさを感じています。七年度から入試方法が若干変りますから、多少変化するかも知れません。しかし、合格率や進学率は年々上がって来ていますから、これからは大いに期待できるのではないのでしょうか。私も孫は二葉に入れようと思つて

総会報告

— 平成4年度 —
副支部長
安部雅子 (高校2回)

平成五年五月二十日(火)、新緑輝く神宮外苑日本青年館内東洋軒において、恒例諏訪二葉高校同窓会東京支部の平成4年度総会は開催されました。参加者会員二三五名、同窓会本部より河西、矢崎両副支部長、母校坂本校長先生、三井為友先生はじめ客員三名、合計二四一名と当初危惧しておりました平日の開催にも関わらず会場はこれ以上の増員は不可能というほどの盛況でした。

午前十時武井副支部長司会により、笠松副支部長の開会の辞、高校3回青木恭子さんの伴奏による校歌斉唱、続いて宮崎支部長より先の支部会則一部変更による新体制役員の手掛ける最初の総会であり、支部員構成も既に高校卒業者が大半を占め、男子会員を受け入れる情勢に変わってきたこと、高女会員の従来と変わりないご協力を頂きながらも、

員がともに参加活躍できる同窓会に期待したい旨の挨拶がありました。続いて議事に入り今年度より総会進行の新しい形として議長の見直しを行いました。高校1回黒崎厚子さんを選任、議長指示に基づき活動報告(笠松)・会計報告(矢野)・会計監査報告(山本)をそれぞれ承認、宮崎支部長による平成5年度新役員紹介、武井新支部長挨拶をもって全議事を終了、議長解任を行いました。

次いで坂本校長先生より長野県最後の女子高だった二葉も共学に多少様変わりはしても、服装は質素、校内の清掃も県内一など母校の近況を、本部副部長河西様よりお祝いの言葉と、本部総会、二年に一度のバス旅行、名簿作成の事業報告を、三井先生は命を大切に、小松先生は二葉では教えるより生徒の生活が長かった等のご挨拶を頂戴し午前の部を終了しました。

清水前支部長の音頭によりビールによる乾杯。総会にビールが供されたのは今回が初めてで、若い会員とりわけ将来の男子会員加入に向けての役員の一つの試みでもありました。また昼食の間昨年諏訪で行われた御柱のビデオを上映し、会食中手元が多少暗くなるなどの難点もありましたが、故事来歴を踏まえた、学術的視点の御柱祭ビデオに改めて関心が寄せられました。午後の部はNHKアナウンサー名取将氏による講演「報道こぼれ話し」でした。さすがプロの話術の妙に会場が和みました。アトラクションとして高校1回北沢美代子さんの箏曲演奏、また当日ご参加下さった高女22回生の皆様は、今回をもって役員会費免除の名譽会員となられることから、全員に花束を贈呈し感謝の気持ちをお伝え致しました。

平成4年度決算報告書

諏訪二葉高校同窓会東京支部

(平成4年5月1日～平成5年4月30日)

支 入 の 部			支 出 の 部			
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考	
1 前年度繰越金	1,342,284		1 総 会 関 係	東洋軒会食費	941,400	パーティー・飲食物他 241名
2 4年度維持費納入額	1,510,545	内振込 736,045		東洋軒会場費	179,795	席料・奉仕料・その他
3 4年度総会会費	944,000	4,000×236		講師謝礼	60,000	名越先生他(車代共)
4 総会関係雑収入	50,000		雑費	132,935	通信費・決算報告他	
5 寄付金	40,000	同窓生 2名	印刷費	205,070	会報・名簿訂正・案内	
6 会報関係	50,000	本部より祝儀	通信費	230,590	封筒・送料	
7 還元金	180,000	本部終身会費より	雑費	24,374	名簿コピー代他	
8 預金利子	38,683		3 弔 慰 金	1,247	弔電・弔文送料	
			4 積 立 基 金	200,000	積立基金現在 700,000	
			5 役 員 通 信 費	35,000		
			6 役 員 交 通 費	38,720		
			7 役 員 会 ・ 幹 事 会	233,233	役員会6回幹事会3回	
			8 雑 費	122,600		
			9 次 年 度 繰 越 金	1,750,548		
合 計	4,155,512		合 計	4,155,512		

上記の通りご報告致します

上記は会計監査の結果間違いありません

平成4年度会計

平成5年4月30日
入来院 貞子
矢野 恭子

平成4年度会計監査

平成5年4月30日
山本 倭子
林 芳子



平成5年度 諏訪二葉高等学校同窓会東京支部総会は、平成六年五月二十日(金)、午前十時半から、午後三時まで、日本青年館内東洋軒に於て下記の通り開催されました。参加者二二一名(来賓四名、役員九名を含む)。当日は五月晴れの大変さわやかな、緑の美しい季節であり、外苑の樹々に囲まれた日本青年館に集う同窓生達は、一段と理性美に満ちておりました。詫摩先生の御講演は、私達が常に直面している老いの問題点を簡潔に語られ、大変良い勉強をさせていただきました。そして、少々固苦しいイメージの二葉の同窓会総会も、華やかなスペイン舞踊に来賓の先生方はじめ会員一同は大よろこびでした。又今更ながら、時代の移ろいを感じるひとときでもありました。

—— 平成5年度 ——
副支部長 古侯松子 (高校3回)

司会 副支部長 井上玲子(高3)

- 一、開会の辞 副支部長 安部雅子(高2)
- 二、校歌斉唱 ピアノ伴奏 小川安子(高2)
- 三、支部長挨拶 武井善子(高2)
- 四、来賓・客員紹介 武井善子(高2)
- 五、議事
 - 議長選出
 - 議長 矢花ミチ(高2)
 - 1. 事業報告 安部雅子(高2)
 - 2. 会計報告 金子秀子(高6)
 - 3. 会計監査報告 入来院貞子(高5)
- 六、来賓祝辞
 - 母校校長 坂本明由先生
 - 男女共学以後の二葉高校の活躍の様子
 - 本部同窓会会長 小口玲子様
 - 東京支部総会に出席の謝辞
- 七、客員挨拶 松本尚家先生
- 八、新年度役員紹介 武井善子
 - 支部長 井上玲子(高3)
 - 副支部長 古侯松子(高3) 林芳子(高4)
 - 山田淳子(高4)
 - 会計 伊藤順子(高7) 小平ミキ子(高7)
 - 記録 池田悠子(高12) 三沢章子(高12)
 - 進藤国子(高12)
- 九、新支部長挨拶 井上玲子
 - 昼食・歓談 ——
- 十、講演 詫摩武俊先生『心の健康と老い』
 - 講演者への謝辞 武井善子
- 十一、余興 スペイン舞踊 池田敬子(高2) 他
- 十二、合唱 白き翼、今日の日はさようなら
- 十三、支部長・副支部長へ花束贈呈(高2有志)
- 十四、閉会の辞 古侯松子(高3)

平成5年度決算報告書

諏訪二葉高校同窓会東京支部 (平成5年5月1日～平成6年4月30日)

支 入 の 部			支 出 の 部			
項 目	金 額	備 考	項 目	金 額	備 考	
1 前年度繰越金	1,750,548		1 総 会 関 係	東洋軒会食代	1,133,900	
2 5年度維持費収入	1,387,476	内振込(768,476)		東洋軒会場費	220,333	
3 総会当日会費	1,179,000	@ 5,000×235 @ 1,000×4		講師謝礼	50,000	名取講師分
4 総会関係雑収入	90,000	本部客員ご祝儀、名取氏寄付		雑 費	139,114	御柱ビデオ、プログラム他
5 寄 付 金	104,000			2 印 刷 代	36,000	
6 還 元 金	130,000	本部終身会費より		3 コピー等事務費	25,731	
7 預 金 利 子	33,345			4 通 信 費	204,600	
			5 役 員 通 信 費	37,000		
			6 役 員 交 通 費	86,320		
			7 役 員 会 ・ 幹 事 会	414,978	役員会7回 幹事会3回	
			8 弔 慰 金	2,121	弔電、弔文送料	
			9 雑 費	42,676		
			10 基 金 積 立 へ	200,000	積立基金現在 900,000	
			次 年 度 繰 越	2,081,596		
合 計	4,674,369		合 計	4,674,369		

上記の通りご報告致します

上記は会計監査の結果間違いありません

平成5年度会計
金子秀子
矢崎 禮美子

平成5年度会計監査
入来院 貞子
矢野 恭子

平成4年度
講演要旨

『報道こぼれ話し』

NHKチーフアナウンサー 名取 將先生

ただいまご紹介いただきま
した、富士見町出身の名取で
ございます。アナウンサーに
なつて三十年です。私は清陵
高校の出身ですが、母校の同
窓会には一回だけしか出席し
ていません。他の高校の同窓
会でお話をすることは大変僣
越なこと、遠慮申し上げた
のですが、何かお役に立つな
らと思ひお邪魔いたしました。

先日松本まで車で行きまし
た。高速道から見ますと上諏
訪に較べ茅野あたりが随分発
展してきたように見えます。

脱穀することを知りません
でした。そんな時代になってい
るのです。

さて、私の働いているNH
Kには現在五四の放送局、支
局があります。職員は約一三
〇〇〇人。仕事の性格上、全
職員の五七%が大卒です。取
材、番組制作、技術、管理、
営業等をしていきます。アナウ
ンサーは五〇〇人足らずです。

東京一〇〇人。あとは地方に
います。転勤はほぼ四年間隔
全国を回ります。

NHKの事業はテレビが総
合と教育、衛星第一、第二。
ラジオ第一、第二、FM、そ
れにラジオ・ジャパンと呼ぶ
短波放送があります。文字放
送も出しています。NHKは
人が多いといわれますが、む
しろ足りません。休みは取れ
ず、浮世の義理を欠くことも
多いのです。十五年間一度も
家で食事をとつたことがない
記者もいます。マスコミでこ
れから働きたいという人は親
戚、友人に不義理を覚悟しな
ければなりません。

ニユースはどのようにして
来るかと言いますと、記者ク
ラブというものがあります。
政治部なら首相官邸や国会、
各政党のクラブに詰めていま
す。そこで議員の先生方や官
僚からニユースを得ます。経
済部は大蔵省、通産省、経団
連等。社会部は警察庁や警視
庁、JR等の所要所に記者
クラブがあります。国際部の
様に外国のニユースを扱うと
ころもあります。それらで得
られないものは社会部に「遊
軍」というグループがいて機
動的に動いています。

私たちアナウンサーは一週
間に一度宿泊勤務があります。
昔は六人一組でしたが、今は
四人泊りです。夜中に緊急の
警報が鳴るとできるだけ早く
スタジオに行かなければなり
ません。従つてスタジオの近
くで仮眠します。以前は
ニユース・センターの地下の
仮眠室に寝ましたからスタッ
ジオまで三分かかりました。今
はスタジオのセットの裏で寝
ていますから起きればすぐ対
応出来ます。それからさすが
東京、アナウンサーはカメラ
を向いたままで喋る、頭が良
い、といわれています。これ
にはからくりがあるのです。
プロンプターという機械を
使つてカメラの前に大きな字
が出ます。それを読んでいま
のです。最近では地方にも機械
が行き渡りましたから頭の良
いアナウンサーがどんどん増
えています。洋服やネクタイ
は皆さん関心があると見えて
色々なことをいってきます。
ほとんど自前です。アトセ
ンターという子会社が衣裳を
担当しているものですから、
そこから借りることもありま
す。スタジオのライトで洋服
が焼けますから持ちがよくあ
りません。税務署は洋服代の
控除を認めてくれません。民
放でも自前だよ、と友達が泣
いていました。

衛星放送はNHKが2チャ
ネル、ハイビジョン放送、
WOW・WOWという会社が
あります。経営はなかなか大
変ですがこれから期待のもて
るメディアです。普及をさせ
ていかなければなりません。
どうぞご理解ください。また
最近話題になつた「やらせ」
についてですが事実でもない
ことをあたかも存在するかの
ように伝えることは許される
ことではありません。確かに
ドラマティックなシーンの魅

力は悪魔のささやきに聞こえ
ます。誘惑に負けてしまつた
ら終わりです。信用、信頼は
無に帰します。事実を事実と
して伝える厳しい倫理観を
もつて信頼の回復に努めてい
くつもりです。

私は「小さな旅」という番
組を担当していますが、行く
先さきで昔懐かしい光景に出
会います。去年、館山に行き
ましたら山の田んぼに足踏み
の脱穀機がありました。若い
ディレクターは、これで粃を

講師略歴 昭和十四年五月
生、昭和三十三年諏訪清陵高
校卒。早大卒。三十八年福島
放送局。四十四年東京よど号
事件・ドバイ日航機爆破事件
・赤軍派クアラルンプール事
件の中継。ニユースセンター
九時等ニユースを担当、現在
「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。

「小さな旅」のリポーター。



『心の健康と老い』

文学博士 詫摩 武俊先生

私自身は諏訪の出身ではありませんが、家内の母親は諏訪で生まれ、家内は二葉高校にお世請になりました。また、

私自身は諏訪の出身ではありませんが、家内の母親は諏訪で生まれ、家内は二葉高校にお世請になりました。また、

昔諏訪高女で国語を教えておられた土屋文明先生は、東大心理学科で私の三十年前の先輩に当たり、女学校で教えた生徒の話をして下さいました。私にとって諏訪は縁の深いところで

日本の老人には二つの問題が考えられます。一つは老人が急速に増えていること。六五才以上が老人といわれますが、総人口の中で六五才以上の人が五%から十二%になるまでに何年要したかが、よく

さて、今日の本題に入りませう。まだ老いとの関わりのない方も大勢いらっしゃいます。が、ご婦人の中にはお年寄りのお世話をする方もあり、年を取ることについてお話しいたします。身体の健康の方は、年一回の定期検診もあり、行き届いていますが、心の健康には今ままであまり注意が払われてきませんでした。心の病

国際比較の対象になります。日本では、昭和二十五年までは約五%でしたが四十年後に十二%になりました。徐々に高齢化の進んだヨーロッパの先進工業国ではこれに要した時間が、フランスで一八〇年、スウェーデンで一五〇年で、日本の急速な高齢化がここに示されています。二〇二〇年には、総人口の四分の一が六五歳以上になると予測されます。政府や自治体の対策を待つだけではなく、老後のことは自分で考えねばなりません。もう一つは、老人の生活様式の変化です。かつては、

三世帯同居が普通で、それが理想の姿でもありましたが、今は老人夫婦二人だけの生活が増えていきます。片方に先立たれても、息子や娘とは同居せず、一人暮らしや老人ホームで暮らす場合が多いのです。したがって、子や孫との触れ合いの機会も減り、例え同居していても互いに話し合ったり、行動を共にすることはなく、かかわることがずつと少なくなりました。小さい頃から祖父母と共に過ごしてきた子供は、自分の命を大切にする傾向があり、二十歳前後で自殺するような青年の生い立ちの中には、祖父母の影をみることはありません。私は子供の頃、父方の祖父母と共に暮らし、色々な体験をしました。貰ってきた子犬が夜鳴いて困ったとき、祖父が古い目覚まし時計を布で包んで寝床に入れてやり、母犬の心臓のリズムと錯覚させて無事収まったこと。戦争中祖母に蠟燭の作り方を教わったこと。祖父が青年の頃にみた城を自分も見に行き、その城壁について祖父が話してくれたことを思い出して、深い感動に包まれたことなど。自分の命は、親、祖父母、曾

祖父母から伝わってきたものであり、これを後に伝えたいと感じるのは、子供の頃、祖父母との体験から培われている感覚ではないでしょうか。学校で習う歴史とは別に、自分の体験した歴史を孫に伝えることが大切だと思います。次に、心の健康を保つ上で大切なことですが、まず第一は移動能力を失わないこと。タクシーやエレベータなどに直ぐ頼らず、なるべく自分の足を使うことです。自力で移動する距離の長短が幸福感につながるのと調査結果があります。第二は、良い仲間を持つこと。特に、同性、同世代の仲間と楽しく過ごす時間をもつことが大切です。第三に、広い関心を持つこと。テレビの教養番組の利用、運転免許の取得、趣味に打ち込むことなど、自分を活性化することで、ぼけ防止にもなります。第四に、男より圧倒的に女に多い、ぼけを防ぐこと。今までの夫主導型の女性の生き方にも原因があり、自分で判断する習慣をつけることが必要です。そのために、分かり切ったことを直ぐ他人に聞かず、自分で調べ確かめることが大切です。次にお勧めす

るのは麻雀です。四人でやるゲームで、それほど面白く変化に富んだものはありません。相手の意図を読み、策を立てる。それで判断力、洞察力が養われます。家族麻雀では親子の交流の場ともなります。また、若い人に好かれる老人であることも大切です。身の回りを清潔にし、身だしなみを整えることは老いを防ぎ、老いを楽しいものにします。最後に、死は人間の宿命であり、如何に死んでいくかを考えることは必要です。人の死の間は、崇高で尊厳なものです。自分の死の姿を子や孫に印象づけることは人間としての最後の役目だと思えます。

講師略歴

昭和二年千葉市生まれ。東大文学部心理学科卒、ドイツに留学後、心理学教授として学習院大学、都立大学で教鞭をとる。定年退職後は東京国際大学教授。日本心理学会理事、日本性格心理学会理事長でもある。

著書「これからの老い」、「性格」(講談社)、「性格はいかにつくられるか」(岩波書店)、「のびてゆく子どもたち」(中央公論社)他多数。

告げ、いよいよ社会人として
新たな出発をする私にとっ
て、大きな節目、転機となる
年なのです。

この卒業・就職という重要
な時期にあたり、社会人とは
いかなるものか、いかにある
べきものかという心構えも
しっかりと持たなくてはなら
ないと考えます。しかしなが
ら、今まで学生として過ごし
てきた私にとっては、就職・
社会人とは未知のものであり、
企業・社会において、私に何
が要求されるのかということ
になると、明確にわかる段階
ではありません。ただ、はっ
きりしていることは、これま
で以上に「自分の言ったこと
を行ったことに対する責任」と
いうものがシビアに要求され
ることは間違いないのではな
いでしょうか。今までも「責
任」ということに関しては気
をつけてきたつもりですが、
これからはより一層、自分の
言動には責任を持てるように
努めたいと思います。

「宮芳平展」とその後

浜 洋子 (高校11回)

昨年のだが、十二月十
六日付けの『信濃毎日新聞』
と『市民タイムス』の切り抜
きが、松本市に住む同級生K
さんから届いた。展覧会がご
縁になって、宮芳平先生の遺
作、遺品など二五〇〇点が豊
科近代美術館に寄贈される旨
が載っていて、びっくりした。
豊科近代美術館での「宮芳
平展」は、昨夏七月二十八日
から八月三十一日まで開催さ
れ、入場者は五二〇〇人だっ
たそうである。あの猛暑の中
を私も二度出向いた。



茜さす山 1937年(S12)

この展覧会で特筆したいこ
とが二つある。まず、なによ
り嬉しかったのは、初めてカ
タログが作られたこと。そし
てその中で、富山秀男先生の
「宮芳平の画業について」を
読ませていただいたことであ
る。(私は長い間、いったい
宮先生の作品はプロの眼には
どのように映り、位置づけら
れるのかを、知りたいと思っ
てきた。) カタログ後部の資
料も、編者のセンスがゆき届
いていて、一目瞭然、教えら
れることも多く、大変な作業
だったであろうと思われた。

つぎに、展示されていた油
絵の色が、鮮やかに光ってい
たこと。二葉に在学中、講堂
にあった「茜さす山」や校長
室に掛けていた「八島」、絵
画室にあった「母と子」、数
年前に図書室で見かけた
「櫻」など、今回、あまりに
も色鮮やかだったので、会場
に居られた紀枝さん(宮晴夫
氏と結婚、大熊で作品を保管
されてきた)に、そのことを
話した。なんと、今回の展示
の前に、固くしばったタオル
で一枚ずつ全油絵の表面に付
着していた汚れを拭きとった
とのこと。宮先生がキャンバ
スに描かれた当初の色に、限
りなく近い色彩が甦ってきた
わけで、あらためて感慨深く
見入った。

歴代支部長会

宮先生が亡くなられて、二
十四年になる。
今年一月十九日新宿のレス
トラン「あじさい宿」に、歴
代支部長のうち、小幡さん
(高女20回)、小口さん(高
女30回)、青木さん(高女36
回)、宮崎さん(高校1回)、
武井さん(高校2回)の四名
をお迎えして、現支部長、副
支部長との交歓会を開きまし
た。歴代支部長には、お一人
ずつ、現況
とそこに至
る道筋につ
いて味わい
深いお話を
伺い、深い
感銘を受け
ました。今
後は、もう
少しこの会
を拡げよう



との提案もあり、同感を胸に
たたみ散会しました。

物故者 平成五年四月〜七年二月

- 高女10回 寛 ちよ子
 - 高女11回 小池 ゆう
 - 高女13回 山口その子
 - 高女13回 清水 淋子
 - 高女14回 高橋 嘉代
 - 高女14回 筒井さだ子
 - 高女16回 落沢 あい
 - 高女16回 鶴飼 あい
 - 高女17回 角田みつゑ
 - 高女17回 柏田なちよ
 - 高女19回 宮坂よし子
 - 高女21回 小島 絢子
 - 高女22回 片山美喜子
 - 高女23回 芦原 國子
 - 高女23回 伊藤 ひろ
 - 高女23回 森 かほる
 - 高女24回 倉持 いち
 - 高女26回 川上 幾子
 - 高女26回 小松てい子
 - 高女27回 上原 栄子
 - 高女28回 原田さと子
 - 高女29回 窪嶋 光子
 - 高女29回 名取 和子
 - 高女30回 荒木 すみ
 - 高女30回 白木 ゆき
 - 高女31回 鶴我 広子
 - 高女31回 和田ひろむ
 - 高女31回 山崎 貞子
 - 高女38回 安部みはる
 - 高女38回 藤森 京子
 - 高女38回 三堀 活子
 - 高女38回 中重喜代子
 - 高校2回 小林 幹子
 - 高校3回 窪寺 芳江
 - 高校17回 名取 敬子
 - 高校19回 井上 緑
- ご冥福をお祈りいたします。

魅力を磨いて

素敵な人生を！

北沢妙子(高校11回)

人は、余程のへそ曲りでない限り、誰もがいつまでも魅力的でありたいと願うものです。そこで私は「誰でも努力をすれば魅力的になれる」という「魅力学」の研究者として、その魅力の磨き方を、全国各地のあらゆる年令、職業の男女の方達を対象に講演しております。

魅力づくりの第一のポイントは、よい出会いをつくるために第一印象を磨くこと。第二のポイントは、コミュニケーションを深めるために話し方を磨くこと。そして第三のポイントは、プラスの人間関係を保つくりのために人間関係を磨くこと。以上三つのポイントを、私達の日常生活の中の身近な例を織り混ぜて具体的にお話しております。

講演という仕事を始めて約二十年になりますが、どのような事があっても決して代わりがきかないという点では辛い時もあります。でもこれが私の天職と信じて、日本中の人びとにもっと輝いていただくために、可能な限りこの仕事を続けたいと思います。

同窓生の皆様には是非素敵に、魅力的に歳を重ねて欲しいと願っております。

プロフィール

- ・北沢妙子魅力学研究所所長
- ・コンサルNSP理事
- ・カラーアナリスト
- ・健康管理アドバイザー
- ・著書「魅力が光る人になるために」(早稲田教育出版社)、「もっと輝く女性になれる」(経林書房)。

活躍する先輩・後輩

盲老人福祉ひとすじに

酒井久江(高校12回)

今思えば、卒業の頃事務の増井さんに誘われて点字の勉強を始めたことが、今の盲老人ホームでの仕事への最初のきっかけとなったこと、同期や後輩の方々から大きな励ましを受けて現在に至っていることに感謝でいっぱいです。

高齢者の増加とともに、盲老人の増加も著しく、盲老人ホームにおける豊かな生活と在宅盲老人へのケアの重要性が大きな課題となっています。視覚を失うことは、人間の感覚の九割を失うといわれ、特に高齢の方々をお世話することは、一般の老人ホームと異なり、心身ともに細かい配慮を必要とします。

今、全国の盲老人ホーム七十施設の四千余名の盲老人、約二千名の職員のため、専門的知識と技術を習得できるように組織された団体の仕事を主にしており、研修会やガイドブック作成に全力を傾け、資質向上のため頑張っています。一方、聖明園においては昨秋建て替えにより一〇〇室トイレ付個室が完成しましたが、悩みの種は資金づくりです。書き損じハガキ、使用済切手、テレフォンカードによる資金作りをしておりますので、ご協力いただければ幸いです。

プロフィール

昭和四十三年より聖明園(千一九八 青梅市根ヶ布二ノ七三三) 電話 〇四二八一二四一五七〇〇

勤務、現在全国盲老人福祉施設協議会事務局長・聖明園後援会事務局長

提言

「師の教えは生きている」

小林かつゑ (高女16回)

も私にとっては今も忘れられない真の教訓です。その時のお姿まで思い出されます。

私は六月で八十八歳になりました。私は七十年も昔に先生方からいただいた教訓を今でも忘れません。高女入学の間際に父の急逝にさい最大の悲しみを経験しました。入学式の日母から、二人の兄が諷中を中退して働いてくれるのだからその苦勞を無駄にせず、本気で勉強しよう言われました。教室の時間は大変緊張しておりました。時々ユーモアで私達の心が温かくなる言葉を伝えてくださる先生もあって、五人の子どもを養育する時には役立ちました。国語の〇先生は裁縫が上手に出来なくてもあまりこだわらず、時間をつくって一頁でも多く良い本を読みなさい。図画のM先生は「絵なんか下手でもいい、良い子になれ。そうすればひとりでに良い絵が画ける」と黒板に書きました。お料理の時間、飯田先生は、混食の大切なこと、ピタミンの種類と役割を教えてくださいました。どの先生の教え

「愛は凡てを忍び凡てを信じ凡てを望む」(聖書)。

文苑



詩

あやとり

花岡千枝子 (高校3回)

赤い毛糸で

ほら 橋できた

この橋 どこに かけようか

屋根から屋根に

山から山に

雲から雲に

風に吹かれて

揺れる橋

赤い毛糸で

ほら 橋できた

この橋 どこに かけようか

岸から岸へ

砂漠の中に

川を作って

草青々森青々

岸から岸へ

象が渡っても壊れない

ありが渡っても落っこちない

キリンが渡るとゆらゆら揺れる

俳句

渡部ふさ (高女29回)

星雫あびたる湖の御神渡り

木遣おんべ靡き湧きたつ御柱

祭 くれなるの渦宙におく牡丹か

な

素干しする達磨の彼方鳥渡る

沖光り一人つつ寄る磯焚火

図書紹介

大村はま著 (客員)

「日本の教師に伝えたいこと」

(ちくま学芸文庫)

「教室をいきいきと」

(筑摩書房)

宮坂絹子著 (高校3回)

「花鏡」 (短歌新聞社)

高嶋あき著 (高校6回)

「みづうみ」 (不識書院)

短歌

明日へ

畑 富士江 (高女28回)

逝く秋の夜の寂寥もわがものと時かけて磨くガラスの花瓶
生くる不安生くる優しさ石菫の黄なる一本岩場に仰ぐ

焼き立てのパン膝にのせバスにをり仮初の命温めながら
わが窓に縋りて乾く蠅螂も掃き捨てて今日クリスマスイフ
踏切に立ちて見てをり煌煌と明日へ向ふごとき電車を

今井綾子 (高女28回)

甲斐駒の雪の嶺まぶしふるさとの澄める大気を鋭く切りて
美味い茶を点ててくれよと言ひし夫独り新茶を飲みつつ偲ぶ
湧き水に冷せしトマト頬ばりて子等と過せし蓼科の夏

(黒川先生)

米寿ちかき師は足腰も軽やかに椿の庭に我等を写す

(台湾)

白き布をたたむようなる波寄するガラピ岬の戦跡静か

わらいぼとけ

竹田真喜子 (高女28回)

晩秋の冷えしみわたる奈良の里買いし焼手に手も温めつつ
妻問の神武帝も掬びしや岩清水のみに柔し狭井の宮居に
道連れ戻りつつ見過ぐむらさきや三輪の麓の竜胆の花

無人売場にあがない食ぶる柿甘し刈田見放けて三輪の山裾

野鳥らも憩わん磨崖の笑ひ佛秋陽にぬくむ大和の野路に

母校

宮坂絹子 (高校3回)

入笠の峰より望むふるさとの町白白と山に続きぬ

畳なはる山間に見え諏訪の湖しるがね色の光遙けし

たたずまひ遠き日のごと庭の樹木春の光を湛へ静もる

高嶋あき (高校6回)

煌めきて編目すべらす銀の針夢と時間を編み籠めながら
桜舞うひかりの中の記念講堂少女ら花のごとく散りゆく
手より手へ架けて遊びし綾取りの橋をわたりて往きたる娘

編集後記

各方面のご協力によって、
思ったより沢山の原稿をいた
だくことができ、感謝申し上
げます。今回は、地味な分野
で努力を続け成果をあげてい
らっしゃる方々をご紹介でき
たこと、また、初の男子会員
から寄稿していただけたこと
など、新しい方向を模索しつ
つ、「東京支部だより」第4
号をお届けできることを嬉し
く思います。

素人の支部だより作りも、
何とか発行にこぎつけられ、
スタッフ一同ほっとしており
ます。

編集委員

- 井上 玲子
- 古俣 松子
- 林 芳子
- 山田 淳子
- 伊藤 順子
- 小平ミキ子
- 池田 悠子
- 三沢 章子
- 進藤 国子



東京支部活動記録

平成4年度

役員 支部長 宮崎 玲子 副支部長 笠松光江、武井善子、安部雅子
 会計 入来院貞子、矢野恭子 記録 小林美智子、増沢美代子、下村美智子
 本部理事会出席 (宮崎支部長) 4年 4.7.8.12月、 5年 2.4月 (武井副支部長) 5年 4月
 本部総会出席 (宮崎支部長、武井副支部長) 5年 5月

活動のあらまし

年月日	事項	備考
4 6/11	新旧役員引継	
9/11	役員会	第1回幹事会準備、総会報告、役員幹事名簿作成、東京支部長だより発刊について
11/ 9	第一回幹事会	役員幹事名簿配布、総会報告と反省、次期総会への要望維持費納入方法、
	終了後役員会	名簿変更事項の処理、東京だより発刊の承認、原稿依頼、編集責任者安部雅子
12/11	役員会	第2回幹事会準備、東京支部だより原稿の現状、特別原稿の分担、役員会追加の承認 (編集、総会残務)
5 1/12.13	表敬訪問	支部長、武井副支部長、20回市山春子氏及び母校訪問
1/22	第2回幹事会	東京支部だより中間報告、平成5年度役員及び幹事の選出について
	終了後役員会	
1/29	臨時役員会	第3回幹事会準備、講演者決定、アトラクション依頼
2/ 9	臨時役員会	東京支部だより編集(支部長宅)
2/22	臨時役員会	東京支部だより校正(支部長宅)
4/ 5	役員会	総会のお知らせ、東京だより、封筒切手等配布準備、総会の役割分担
4/ 9	第3回幹事会	東京だより及び総会通知配布、新役員の紹介、総会当日の役割依頼
	終了後役員会	
5/ 7	臨時役員会	総会の準備、客員の招待
5/17	会計監査	会計監査2名、支部長、副支部長1名、会計2名、書記1名
	臨時役員会	総会最終チェック
5/25	総会	出席者249名
	臨時役員会	総会反省

平成5年度

役員 支部長 武井 善子 副支部長 安部雅子、井上玲子、古俣松子 会計 金子秀子、矢崎禮美子
 記録 清水たき子、原 清子、清水育子
 本部理事会出席 (武井支部長) 4月、6月、10月、12月、2月
 本部総会出席 (武井支部長、井上副支部長)
 長野県同窓連総会出席 (武井支部長、井上副支部長)

活動のあらまし

年月日	事項	備考
5 6/14	新旧役員引継	
8/26	役員会	第1回幹事会準備、役員幹事名簿作成、総会会計報告
10/22	第一回幹事会	副支部長変更の承認、総会の会計報告と反省、役員交通実費支給の承認、会計通信費 3,000円を5,000円に変更の承認、幹事会食事代値上げの承認、総会使用の御柱ビデオ幹 旋について
12/ 6	役員会	歴代支部長会開催について、総会講師・アトラクションの検討
6 1/18	歴代支部長会	小幡恵菓子(7) 小口方子(13)河西八重(14 青木代理)清水保子(15)宮崎玲子(16)武井善子 (17)敬称略
1/24	第二回幹事会	総会案内配布方法の検討、次期役員・幹事の申告、総会の役割分担
3/14	役員会	名簿訂正、総会通知希望部数の集計と部数決定、会計監査日の決定
4/11	第三回幹事会	新役員紹介、総会通知発送委託
5/11	役員会	会計監査、東洋軒との予算折衝と会場準備打合せ
5/18	役員会	総会準備最終打合せ
5/20	総会	会場日本青年会館東洋軒 出席者226名